

法職講座黎明期の思い出

宮平真弥

三月になって入試業務などが一段落したので、研究室の掃除をしていたら、本棚の下の方から、卓球のラケットが一組出てきた。さらに、突き進んでいくと、紙の将棋盤、カード、バスケットボール、プラスチックのバット、釣り竿、けん玉、ヨーヨーなどが見つかった。

なぜ、この研究室にはこんなに遊び道具があるのか？

私が本学で授業するようになったのは、二〇〇〇年からである。最初の数年間は、公務員や各種資格試験を希望する学生に対して、課外講座が開かれていた。つまり、試験対策講座は単位化されておらず、通常の授業とは別に申し込みをした希望者が受講していたのである。その中には、私のゼミの学生もいたが、そうでないものも多数受講していた。私は、研究室を開放し、いつでも自習室として利用することを認めていた。本棚には、自分の専門領域の書物や資料のほかに、公務員採用試験、行政書士、司法書士、ロースクール、SPI対策などの参考書や問題集を置くようにした。

そのうち、ゼミや講座で知り合った学生たちが、研究室に集まって勉強するようになった。定期試験の直前にはノートの貸し借りも行われ、お互いに得意な科目などを教えあうようになっていった。最初のころは、質問があれば可能な限り対応していたのであるが、公務員採用試験に登場する数学や理科はお手上げである。何人かの学生には、数学の教員の研究室に行くよう指示をした。あるいは、参考書を紹介した。時間がたつに従って、この教員はあてにならんと考えるようになったのか、あまり質問することもなくなり、彼らはいつのまにか授業前や授業の合間に研究室に集まり、勝手に勉強するようになる。仲がよくなってくると、勉強の合間に、遊ぶようになる。

そこで、冒頭に列挙した遊び道具が徐々に増えていったのである。研究室のテーブルで将棋をしたり、卓球をしたり、大学横の池で釣りをしたりした。当時は、大学の運動施設もそれほどなかったもので、原っぱのような空間が残っていた。そういうところで、バスケットボールや野球をした。私も、何度か誘われてスーツのまま野球をしたり、つりを楽しんだりしたが、基本的には研究室のパソコンに向かって仕事をしていた。そのそばで、学生たちは勝手に勉強し、遊び、昼飯やおやつを食っていた。

飯といえは、遅くまで残っている学生たちを誘ってお好み焼きやカレーライスの夕食をふるまうこともあった。なぜか、私の周りの学生たちには、真面目なものが多く、彼らはアルコールの類はほとんど摂取しなかった。その代り、菓子類や清涼飲料水を大量に摂取していた（よって御馳走するといっても、金額は微々たるものであった）。課外(?)の活動として、東京の大型書店や神社仏閣に連れて行ったこともあるが、これもしばらくすると学生たちは勝手に秋葉原に行ったり、竜ヶ崎の祭りに行ったりするようになった。

このように、研究室を一種のサロンとして利用し、友達を作り、勉強する学生たちのなかから、毎年、警察官、消防官、郵便局などの採用試験に合格するものがでてきた。もちろん、民間企業に就職するものが一番多

いし、音信不通になったものもある。いずれにしても、大学修了後も、時々連絡をくれ、たまには飯に誘ってくれたりする学生たちは、ほとんど研究室利用組である。

もともと近年は、ツーカーパス制になったり、入試その他の学内業務が多忙になり、あまり研究室にいる時間がとれない。学生と接する機会が減ってきていることは、やや残念な気があるのである。懐かしい遊び道具を眺めながら、研究室のテーブルで学生たちが将棋を指す日が、また来てほしいものだと思った。